



廢刊に際して

吾時報も理想郷土建設の念願に燃へて歩み高嶺の目標に限りなき精進を続け来たりて...

懷古録

久保田 經男

爽冷の秋!! 豊稔の秋!! 紀元二千六百年の意義深き今年、昭和十五年の秋や酣である...

てゐた當時は教育部事業の一端としてであつた。當時の他村各青年會では春秋二回の會報發行が一定の定規の計畫事業であつたが...

部が獨立してゐる二、三の會報發行程度に止めたでは意義をなさず更に青年運動の實踐的な事業として時報により村の情勢を知り、村の姿を共に...

清水御兩氏と共に悉く深い解の下に欣然事に當られた忘れ得ない御力である。有保證新聞としてその後七年間...

第一號發行と共に折にふれ事に當りて村長様を始め各先輩各層へ編輯方針のその時々...

思はせられるものである。昭和維新といふ現下の一大革新新体制所謂新体制に全体主義による強力なる國家的統制...

能の十二分の發揚を希ふものである。嘗ての日前前には全体主義を唱へ、皇道政治の徹底を...

吾時報も今や啓蒙報導機關の唯一として村に無くてはならぬ地位を確保するに到つた。...

過去去りし十年に渡る時報關係者の感想を集録してその「送葬の曲」とするとの青年團當事者諸君の御言葉により久方振りに懐かしくも紙上に...

下平貞雄氏の時新に編輯部なるものが一事業部として獨立し理想實現に向つて大きく一步前進し、その前年下期に於て時報が何回か出された...

その間に「時報」と呼んで新聞の型態をとつたのである。現下の様に國債氾濫時代とは大いに違ふ。今は故人の塚平利市氏及問題外の低利で心よく資金を融通して下さつた現信用組合長清水眞吾氏...

美はし 銃后赤誠 寄附金者芳名 竜丘村役場

銃后國民の赤誠愈々高まり左記獻金者を記す。 金拾圓也 竜丘軍人分會へ 木下 多造殿

最近壯年團運動が急に擔頭して来た。青年團のかつて行つてきた仕事は今日それに一枚實質を加へて、今後當然壯年團の組織と力になつて行はるべきものとならう。...

時恰も二千六百年、青年團記念事業として二五〇圓の保証金積立に懸命中、其の筋よりの達しに依り時報下に於ける防諜關係、新聞用紙制限、關係等により今月號を以つて已むなく全般的に廢刊となる。...

中島久男氏等が青年會教育部在任中に(昭和五年)「時報」の新しい形能を持つたものが二三回發行されてその後一二年間繼續的に發行され

昭八年の新春を迎へ自分が下平君の後をついで編輯部を受持つた時も保證金の問題で月刊新聞の實現は實に困難を極めた編輯部といふ一事業

金拾圓也 (長原區出身) 右 林 二殿

右 金拾圓也 銃后奉公會へ 陸軍主計中尉鈴木留彌殿

右 金拾圓也 銃后奉公會へ 中平春太郎殿

昭十五年も歴史的大轉換の渦の中に暮れ急ぐ。 「物言へば唇寒し秋の風」この時時報最終號へ懐かし

御挨拶

時又工場長 桐生 一郎

貴き紙上を御借り致しまして一言就任の御挨拶をさせて戴きます。

天龍社時又工場の新設に當りまして不肖圖らずも工場長を拜命致しました。素より非才其器でないのを自覚しつつも遂に御受けを致しました。何卒地元村民各位の絶大なる御指導御支援を仰ぎ此の重責の一端を盡したいと存じます。

多年の懸案でありました聯合會天龍社の合同計畫も、時又工場完成によりまして當初の計畫が、達成したので、ありまして産業組合製糸としては全國に冠たるもので、下伊那郡産業組合のため時又郡下蠶糸業利増進のため誠に慶賀に堪へない次第であります。今や我國は未曾有の國難に直

時報廢刊に際して

竜丘青年團長 熊谷和志夫

時報發行も茲に幾星想、愈々村の純正適確なる有保證新聞として其の役割りを保持しより良き村の建設に貢献し、又村唯一の報導機關とし、或は戦線と戦後を結ぶ必要なる機關として益々發展充實致し來たりたるは誠に先輩諸士の多大なる努力と愛村的至誠又各方面の贊助の賜と深く感謝する次第であります。

然し乍ら今同突如去る十月十二日飯田警察署に於て管内に於ける時報、村報發行につき懇談會が開かれ其の結果新体制下に於ける物資節約の折柄用紙制限、防諜、無駄廢除其の他各方面に關し今同一切廢刊致す事に申合せに到つた

感致します。幾星想を経て益々向上充實されつゝ來たり、又青年團運動進展にも最も必要なる時報も今月限り別れるのが物淋しき感じが致します。然し乍ら廢刊の趣旨を思ふ時に之の趣旨に添はざるを得ません。今日に致る過去此の事業に御努力致された先輩の方々や保證金を御貸し下された

新体制に即應して

文部省「大日本青年團」改組案發表

男女青少年團と統合近く實施さる

新政治体制に即應して各種團體の整備統合の機運が濃化しつゝあるのに鑑み文部省では青少年團體の統合並に組織強化に乘出し、青少年團體中最も有力なる大日本青年團、大日本女子青年團、大日本少年聯盟、帝國少年團協會、大日本海洋少年團の五團體其他を統合して新たに「大日本青年團」を組織することに決定し去る九月十六日橋田文相はこの旨定例閣議に報告、諒解を求め左の參考案を發表した。

組織方針

一、國の青年指導方針の靈力なる一元的貫徹を期す。二、青年學校、青年團の不離一性を確保す。三、青少年を通じて男女を通じて一貫したる訓練体制を樹立す。四、官民一体青年指導の強化充實を期す。五、指導者の選任に最も意を用ふ指導者は全て上部の任命に依るものとし、特に第一線指導者の全面的若返りを實行するものとす。六、組織に付ては一切の自由主義的民主主義的傾向を排除し、上部の權威と責任、下部の服従と信頼とを根幹とし常に青年の自發的創意の發揚に留意するものとす。

組織要綱

一、大日本青年團 一、團長は文部大臣を以て之に充つ。二、副團長は文部大臣之を任命す。副團長は團長の命を受けて團の常務を掌理す。三、顧問は團の最高職務に關し團長の諮問に應ず顧問は團の功勞者並に青年指導に關し特別の識見を有する者の中

指導方針

一、國民的性格 鍊成、國體の本義に基き皇運扶翼の不拔の國民的信念を体得せしめ七生報國の國民的性格を鍊成す。二、國家目的への即應、東亞及び世界に於ける皇國の使命並に皇國の當面する内外の情勢に關し明確なる認識を把握せしめ青年の行動を國家目的の遂行達成に歸せしむ、特に現下喫緊の要務たる高度國防國家建設の要請に即應せしむ。三、集團的實踐鍛鍊の徹底 集團的規律訓練と實踐的修練に重点を置く心身一体の鍛鍊を徹底す。

を委嘱す。四、參與は團の重要事項に參與す、専門委員は専門の事項に關し調査並に地方團の指導に當る。參與並に専門委員は關係官吏並に學識經驗者の中より團長之を委嘱す。五、本部に左の七部を置く 總務部 企畫部 指導部 國防訓練部 海軍訓練部 少年部 女子部 部長は關係官廳官吏又は團職員の中より團長之を委嘱又は任命す。一、團長は地方長官を以て之に充つ。二、副團長二名を置く、一名は學務部長を以て之に充て他の一名は團長の申請により大日本青年團長之を任命す。三、參與に關しては概ね大日本青年團に準ず。四、必要に應じ事務組織として青年部、女子部、少年部等を置くことを得。五、郡市青年團 一、郡團長は府縣團長之を任命す。市團長は市長を以て之に充つ。二、郡市青年團には必要に應じ副團長一名を並に參與を置くことを得。三、郡市青年團の専務組織に關しては概ね府縣青年團に準ず。四、六大都市に於ては市青年團の下に區青年團を設く區青年團の組織は市青年團に準ず。六大都市青年團の組織に關しては前項に依るの外適當の特例を設けることを得るものとす。四、町村青年團 市青年團に準じて之を

いよく廢める!!

感想

北 澤 小 太 郎

時報廢刊、いよく時世の流れは此の處迄來た。之も新体制下に於ける用紙制限、防諜、無駄廢除、言論統制等の主旨に出るものとして理解し乍ら、昭和五年以來の足跡を顧みていよくの感慨深いものがある。最初の時報は編冊で五月に發刊され翌月より新聞の様になつた。私は丁度十ヶ年間に涉つた時報保存綴りを今更持出し來つて紙面の特質の變遷を顧み時代の推移を味ひつゝ讀み直して見た。五年五月の投稿に小林正之兄の「口開いて罵れるさくろ哉」と日記体の名文がある。活字が變るの印刷處が變遷した現れで最初は主税町の木下活版所、次が麥島君の伊那印刷所(八年一月)に移り、イントの細い特徴のある誌

ことを得。四、單位青年團は左の五部隊に分ちて之を編制す。第一部 十四歳以上二十歳迄の男子青年 第二部 二十歳以上二十歳迄の男子青年 女子部 十四歳以上二十歳迄の未婚の女子青年 五歳迄の未嫁の女子青年 少年部 尋常小學校四學年以上高等小學校、青年學校普通科及中等學校各二學年以下の少年 少女部 同上の少女 五、學部隊は概ね町内部落の區域により夫々分團を各設けることを得。

滿洲の移民地や、戦地で村の人達が村の消息の判る時報は手紙の様に嬉しいと、友の返事を手にした事のある自分は時報が其の様な役割を果す事の出來なくなるのも寂しい事だと思ふ。本村の時報は其誕生に於て又發展し、最初の幾年間の誌面に於て近村の時報より一步先じて居た當時他村青年會の編纂者との座談會や視察の來訪やいろいろの事あつた出來事も過去の思出である。今日迄特に多忙な編輯やら原稿集めやら届出の面倒さに散々苦勞せられて、迄の時報を育ててきた各幾代の主任係り諸君の感慨は又格別の事だと推察する。今此處に起きた時報廢刊の其事も實に大きい時代的意義の中に其の姿を没す譯である。日本が今果しつゝある戦時の變革は思想文化、經濟の根本を通じることの舊殻脱皮とも云へるべく、時報廢刊のセンチな愛着を棄て、新体制協力の意味で私にはむしろ喜んでおきたいと思ふ。

紙上より

謹んで御禮

竜丘時報發行に當り保證新聞の基礎をなす保證金積立に當つて公債證書を御貸し下さつた、桐生下平保治氏には厚く御禮申上ます

時報發行上常に大なる御援助を特に出した、役場、組合生産信用組合、電氣組合、又折々と原稿を御寄せ下された先輩各位に紙上より厚く感謝致します。右失禮乍ら時報を通じて御禮迄。 竜丘青年團編纂部



全日本繼走 騎乘大會

竜丘軍用保護馬參加

貳千六百年を記念して馬政局指導關係各省各種團體主催の下に「全日本繼走騎乘大會」が行はれ今迄に見ない大規模なる馬の祭典でありました。

今秋拾月七日正午北は北海道旭川護國神社を南は宮崎縣宮崎神社をそれ、目的地に神社の神旗を奉持して一班廿騎よりなる神旗奉持隊が發進し次々と晴雨に係らず、晝夜兼行一道三府廿六縣南下北上兩班共に二千六百里を走破し各地の産土神の社前で神旗の引繼を行ひ途上各神宮に參拜し崇祖の肇國精神を宣揚し皇軍の武運長久を祈り戦役將兵軍馬の靈に感謝の祈念を捧げ十月廿四日軍馬祭に南下班は榎原神社北上班は明治神宮に神旗を奉獻致しました。

此の大騎乘を賛して沿道軍用保護馬は總動員にて應援騎乘をなし、祭典參加馬匹は實に五万頭を突破しました沿道の學校生徒各種團體は擧げて歡送迎し稀有の盛觀を呈しました拾月廿日午前零時神旗は縣境富士見峠に來り、富士見峠は繼走し三時に諏訪隊に甲信街道を五時に岡谷隊九時には伊那隊正午は宮田隊に二時には七久保隊に伊那路を飯田に向つて來ました。

吾が南信地方は南下班に編入下伊那は飯田隊を編成して竜丘村は飯田隊の竜丘班をなし吉野號(下平周一氏所有)騎手下平氏森號(下平貞夫氏所有)騎手前島氏を光榮の奉持隊に選定し軍用保護馬全馬應援騎乘に參加と決定當日午後二時毛賀澤に集合し、三時飯田長姫神社に到着し神旗の

位が平時戦時を問はず馬は大なる動物であると思ひます現在各軍需資源は統制其の他の工作に依り殆ど完備するも戦線の擴大と共に馬は益々必要となりましたのにか、はらず、この生産は五ヶ年余の年を要し最近は少數の頭數を見るに過ぎ輸入は各國軍需の折更

になく少數の農耕馬、軍馬「軍用保護馬」として國的存在となつて居り、故に軍馬資源保護法を設け國の獎勵をしてゐます。馬を育し國のため家のため盡し、國を愛する者は馬を愛す

二千六百年 十一月三日菊花薫る日 全村体育デー 各區優勝旗目指して盛大に行ふ 伸びる日本 鍛へる身体

十一月三日明治節の佳き日、龍丘村体育會では小學校に於て全村体育デーを行ふ事になり、時恰も今年に紀元二千六百年記念すべき年、盛大にする意氣こみで居る。優勝旗は駄科林屋さん方より寄贈される。採点種目は五種類、一般參加來得る種目故村民多數奮つて參加されん事を希ふ。

麗はしき 秋晴の一日

丘の若人躍る

男女青年合同運動會開催

龍丘男女青年合同運動會主催の陸上競技は、秋晴れの十月十五日午前八時より、小學校の庭に舉行せらる。今年は例年の競技と異り、全般的体育向上の目的を以つて、大衆競技より一部の採点を行ひ、從來の競技の大半はその姿を消し趣味ある結果を現した。

成績次の如し。

一、中跳決勝	五米 前島廣美 桐林
二、四米八四 増田 清 上川路	四米八〇 下平 操 駄科
三、四米七八 下平 敏	四米七七 大平晴司
一、女子ボール投決勝	一、女子二二脚リレー
二、二米一三原 久惠 桐林	二、二米七五木下 綾子 上川路

四等 駄科	長野原
五等 依擔決勝 三十班	健三 上川路
一等 笹岡	章 時 又
二等 中島	正次 駄科
三等 木下	下井田恒茂 長野原
四等 下井田恒茂	長野原
五等 林	正信 桐林
一、二百米決勝	金子 久男 上川路
二等 増田 清	中島 敬一 桐林
三等 下平	敬一 桐林
四等 中島	章 時 又
五等 林	屯 桐林
一、砲丸投決勝	八米五六 牧島重美 駄科
八米三七 岡村秀人 桐林	八米一〇 林 一夫
七米九九 下平 一司 長野原	七米九八 塚平信一 上川路
七米九八 林 賢治 桐林	七米九八 林 賢治 桐林
一、女子五十米決勝	塚平カツエ 上川路
二等 牧内サカエ	下平 悦子 桐林
三等 中島 つた	林 トミ子 桐林
四等 高跳決勝	一、八百米リレー
一等 前島 廣美 桐林	二、八百米リレー
二等 下平 敬一 桐林	三、八百米リレー
三等 増田 清 上川路	四、八百米リレー
四等 吉川 保一 駄科	五、八百米リレー
五等 女子四百米リレー	六、八百米リレー
一等 桐林	二、八百米リレー
二等 上川路	三、八百米リレー
三等 駄科	四、八百米リレー
四等 上川路	五、八百米リレー
五等 上川路	六、八百米リレー

竜丘青年會 青年團と改稱

青年團新体制組織強化に依り竜丘青年會は九月二日臨時總會に於て竜丘青年團と改稱、從つて會則も團則と改め其の内容も組織、役員の一部に付委員長は團長に、委員は幹事に、支會は分團と改正せり。

組合便り

竜丘組合の秋置受入量は總計二万二千二百二十四メに達し、掃立瓦敷三万四千七百七十五瓦に比較すると、瓦對平均六三七メであつた。

節米標語

既報節米標語募集致せし處應募總句數三二〇句集まり、經濟部下伊那出張所に嚴選の結果、左記の當選となりました。

一等 一人ノ節米與亞ノ力 渡邊 勇

二等 節米デ奉公出來ル 有難サ

三等 今村 迂平

四等 混食食シテ押切レ時局 小林 三郎

五等 節米、混食、銃后ハ固シ 古田 よし

牧島 豊

竜丘青年組合教育會では十月二十五日午前八時生糸組合階上に實行組合長會を開き今度配給される麥肥及秋肥等一切の肥料が村内肥料商業者産組の共同配給處となり、從つて全部の肥料受渡しが現金制度となつた事に對處する爲協議會を開き資金問題を相談した。

本村産業組合教育會では十月中旬(日時未定)長野支會の映畫巡迴に依る慰安會を催す筈である。

例年に依り、近村組合と聯合にて十一月十七日、家の光讀者大會を開催すべく準備中。

合同に依り不要整理物件賣却の爲日時未定なるも臨時總會を開き其の席にて諸雜品の組合員希望者に即賣をなすべく目下當事者の手に依り準備を進めつゝある。



視察旅行日々 竜丘村農會

本農會では本年度事業として農村の先進地視察を計畫して左記日程で、四泊五日の行程を終了した。旅行團の組織は團長に岡村村農會長を戴き塚

以上成績を以つて桐林の優勝するところとなり、優勝旗を授與し午後四時會散。

十月一齊自治監査を執行し組合事業の内容調査を行つた。

十月二十九日、三十日兩日日本村女子青年會、産業組合教育會に於て竜丘青年團と改稱、從つて會則も團則と改め其の内容も組織、役員の一部に付委員長は團長に、委員は幹事に、支會は分團と改正せり。

平(善)、佐々木(薫)、關島(信)、下平(藤)佐藤會計保竹下記録係の編成であつた。

十月六日拂曉天龍映發の一番電車に乗り時又驛と毛賀驛で一行乗合せ大平自動車の一五時四十分に乗るべく急いだのであつた。途中佐倉橋詣りで車内所謂立錐の餘地がなく相當頭痛もして來るのであつた全山、山々に中秋の氣は満ち澄んだ山の空氣は行く者の氣分を十分に引き立て、呉れた。大平驛での少時の休憩を除いて三留驛まで直行長途の自動車旅行は余程こたへたものがあつた。

三留野驛の午前八時五十八分汽車で今日の第一視察地瑞浪へ向つた瑞浪驛に着いて見ると日曜の爲か驛内一杯の人で中々の賑いであつた驛より約二十町、寺河戸部落に岐東農園主橋本敏示を尋ねた丁度留守であつたが、近所に居るとの事待つて居るとバケツを提げて歸つた人が橋本氏であつた。氏は養蠶、柿、水稻、細羊、養鶏の經營で昭和十四年度に於ては一万二千圓の収入純益六千圓を出してゐる。所謂文化生活式の農業經營者である。殊に昭和十五年度は反當四十二貫より四十五貫の收購をしてゐる。氏は最も合理的に養蠶、水稻、家畜を無駄なく經營してゐるのは誠に感嘆の至りであつた。然して一行は土岐町櫻堂より約東へ一里山に入つた梅村登氏の農場へ赴いた氏の土地は二十五年來の開墾地で、最初は奥様が山を恐れて逃げた程の地であつたが後々として農業を營んでゐる。丁度氏は一行が行く少し前に鳥取縣の招聘で講演に出た後であつたが奥様に氏の經營に就て聞いた。

(四面三段目へ續く)

長野縣聯合青年團 緊急地區協議會開催

九月十七日突如文部省より
大日本青年團改組統合案が發
表せられ、これに付長野縣聯
合青年團に於ては、此の内容を
見るに青年運動の特異性た
る青年の自發性を弱め愈々官
製ロボット化する、危険性多
分にあるものと思考し、郡市團
長並幹事の參集を求め本案の
検討を行ひ今後に對するの
態度を申合せた。然るに本案
は上記の如き危険性あるも各
方面の情勢より見て一應與へ
られたる條件として今後一層
の自主的活動を展開し我國本
然の青年運動の發展を計るべ
きであるとの結論を得、從つ
て長野縣聯合青年團に於ては
此れが目的達成のため急速な
る全縣的青年常會の組織化を
圖り、以つて文部省案の決定
的欠陥たる官僚傾向と郷土
性の缺除を補ひ、皇國青年運
動の健全なる發達と輝かしき
長野縣聯合青年團の歴史に鑑
み岐路に立つ我國青年團運動
の先達の役割を果さんと約し
全縣下四地區に分ち去る十月
十七日より二十日の四日間に
亘り緊急地區協議會を開催、
我が竜丘青年團は南信地區に
屬し、南信地區岡谷市、飯田
市、諏訪、上下伊那郡協議會
は去る十月廿日午後一時より
上伊那郡伊那町圖書館に於て
開催され、本村青年團を代表
し團長副團長出席せり。
本協議會には大日本青年團本
部派遣員竹内氏臨席し、左記
議案に付協議せり。

議案に付協議せり。
一、青年團は如何に改組さるべきか
二、青年常會組織の實踐方策
協議に當つては、文部省「大
日本青年團」改組統合案に付
先づ第一に其の組織中廿五歳
を以つて最高齡とする點、元
來長野縣聯合青年團は三十歳
を最高齡として組織し、從つ
て其の活動も他縣に比類なき
特異性を有せし處、文部省案
に依れば廿五歳を以て最高齡
として組織するに關し、
① 果して青年運動は充分
出來得るか
② 廿六歳より三十歳迄の
青年は如何にすべき
か

②の事項については青年指導
的位置に立つ新組織が有力視
される。
次に大日本青年團、道府縣青
年團、郡市區青年團、單位青
年團各長就任に關する件
特に眞接町村青年團と關係あ
るものは單位青年團長の件に
して團長及副團長(一名)に青
年學校長、青年學校職員が就
任して如何。本問題に付ては
村長、青年學校長が有力視さ
る。其の他青年常會組織化、青
年教育、指導方針等につき協
議午後四時三十分終了せり。
本協議は支部案に對する長
野縣青年團の意向取纏めるに
過ぎず從つて決定的協議では
なかつた。

圖書館の窓より

時報を通じて一事今村家へ御
禮申上ます。
昨年寄贈されたる寄附金未だ
何とも購入書籍御報告致さず

誠に申譯ありません。
只今の所購入書籍一部ありま
す。近日中に購入の豫定であ
りました本號にまにあわず
圖書館と致し何とも御禮申様
もありません。只今購入書籍

(三面) 視察旅行日々續き
氏は昭和二年頃より精神生活
を豊かにする百姓を伴ふこと
をモットウとして練習生など
を専ら訓育してゐる。水稲、
栗、柿、豚、牛等の經營者で
ある。長しこくも高松宮殿下
よりの御下賜の花品が床に燦
然としてゐた。
歸途瑞浪驛より名古屋に至り
富澤町福住泊りをなす。
十月七日
早朝昨秋の露店も跡を止めざ
る清浄な名古屋街より神宮
前驛にて下車、愛電に依つて
安城今驛へ向ふ。途中豊饒な
愛知平野を祝福して安城着。
殊種な松の見ゆる板倉農場へ
向ふ。農場の入口には柿、梨
の生産物を一山十錢づつに賣
つてゐる。監視の人は居ない
が何等金銭上の誤りがなく道
を御報告申上ます。
二宮尊徳翁全集 吉地昌一
一、現代事業篇
二、日記書翰篇
三、實踐事業篇
四、生活原理篇
五、訓話傳記篇
六、逸話雜錄篇
以上

半歳を回顧して

青年學校便り

世界史に於ける新時代黎明の
鐘が高らかに鳴り響いてゐま
す。新興民族國家の爲には興
隆と發展を告ぐる曉鐘であり
ますが、それは又同時に世界
一の弔鐘でもあります。明治維
新は單に新日本の誕生であり
ました。しかもその誕生は激
湍たる青年に依つて成就され
ました。
今や新世界誕生の重要な指
導的立場に立つ新日本の誕生
と發展は青少年に俟つと共に

その負荷の大任は既に青年
年學校に賜りたるお勸諭に
示しになつてゐる通りであ
ります。かゝるが故に余に汝
青年を示せ然らば「余は汝
國の將來をトせん」と獨り
鉄血宰相ビスマルクは云ひ
ました。勿論此の言葉はその
一郡一村一家の小にも安ん
ずるものであります。組織
の大切であります。

松丘校庭に於ける森閑には優
秀なる講評を受けることを得
ました。査閱場に御臨席の方
々は勿論當日歸校後校庭に於
ける教練御參觀の方々はあの
涙ぐましく青少年の行動それ
は眞に純一無雜な身心を捧げ
つくした發意と行動の一致境
を感激なくしては御覽になれ
なかつたかと存じます。此の
青少年を率いて戰場に臨む指
揮官がどうして兵隊を受けず
に將士は死生を共に櫻花と美
を競ふ武人の床さがつきない
のだと存じます。此の精神の
發揚こそ古くして恒に新しき
日本の原動力でありまして小
にしては町村一家の海基基礎
である存じます漸く爛熟せ
る西洋文化の屍を乗り越へて
新文化を建設し眞の新世界を
誕生せしむるものは此の精神
を以て以下我々の行跡の
一端を記して青年學校の概況
を御報告したいと存じます。

昌の多き道路を羽衣の松に向
ひ浜に釣する漁人と語らひ歸
途三保よりボンボン蒸氣に乗
り清水港へ歸つた。江尻中町
の中村屋へ泊り。當夜一行は
濱の祭りで神社に參詣して清
水の「ローカルカラー」を味
つた。
十月九日
報徳社の杉山部落視察の日で
ある一番の自動車に乗り鹿原
村へ向ふ。清水より二里内外
である村の入口にて今回の事
變の戦死者を墓標として全
部建て、ある、崇敬の念で自
然と頭が下り眼頭が熱くなつ
た。産業組合に若し組合長不
在のため片平主事によつて杉
山部落の歴史を聞いた。祖父
より三代凡てに犠牲的精神を
以て弘化二年より日本一の貧
弱村を誕生された話を承る

生産部のみ力を入れ販賣部
面に於て力を欠き失敗した例
を得る所があつた。時間の餘裕
があるの部落を視察すれば
全山密柑でその中に孟宗箴が
若干あるのみで、全村家作り
も良く生活の富裕な程度が判
つた。歸途偶然に片平信通翁
(三代目の報徳社長)に面會
することが出来種々の話しを
承る光榮に浴した。
本村は昭和十四年度に於て四
十八萬圓の密柑の収入を上げ
一戸當り六町歩より二反歩に
至るまでの密柑畠を有し報徳
社としては六十萬圓位の財産
を持つてゐるさうである。全
部落八十戸であつて産業組合
の貯金が十五萬圓位あるから
大約一戸當り一萬圓位の預金
を持つてゐる譯である。



主なる行事

- 四月四日 義務制實施に就て
の協議會(區長學務委員)
八日 女子部始業式
一〇日 保護者會
一〇日 第二回協議會
一三日 男子部始業式
一七日 女子部遠足
一七日 男子部行軍
一七日 耐熱行軍(男子共)
八月廿七日 教練査閱(松尾校)
八月三十日 教練査閱(松尾校)
本年度設備
一、最新式輕機關銃一丁
一、教練銃 二〇丁
一、手榴彈 一五箇

編輯後記

青葉の山は色彩まばゆき錦繡
の紅葉と化し澄みきつた秋空
に幾千とも數知れぬ秋トノボ
の大編隊、日頃我が流した
酷汗の甲斐あつてか水田には
嬉しい戦時下の食料確保の黄
金の波は農夫の手を待つて居
る、生氣にあふる、若人の心
をそより立つ、製作の秋は何
れ處迄も朗である。
に發刊以來村民皆様に可愛が
れた竜丘時報も愈々新体制下

於ける、防諜關係、新聞用紙
制限等々により本月號限り一
般廢刊致す事になりました。
村民皆様に親しまれ、子弟の
如き愛情に迎られ、今や、時報
は竜丘村から離す事の出来な
い程になつて居ましたが時局
に則して今般廢刊致します
が、時報が村から姿を消す事
は感慨無量。
廢刊號發行に當りましては各
方面より、澤山の寄稿下さ
しました事を厚く御禮申上ま
す。有保證新聞竜丘時報生みの親
久保田さんには發刊當時の様
子お詳細に又北澤さんには毎
月の組合便り又感想を寄稿下
された事は青年團の幸ひとす
る處であります。
今夜は最後の編輯會だ、之れ
で後は編輯會と言ふ事が無い
と思へば淋しい。編輯室も何
時もの編輯會と違ひシンとし
て居て皆の顔色も名残り惜ひ
時報上ラバ、
サラバ竜丘時報。(原)